

普及活動情勢報告（令和4年8月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

産地の取り組みを市場に紹介 ～販売物取引検討会～



市場担当者に栽培技術を説明する米ナス生産者

7月21日、JA高知県れいほく園芸部は令和4年度販売物取引検討会を開催し、市場担当者3名と園芸部生産者11名、JA9名、普及3名が参加しました。

会議の前に市場担当者に米ナスと土佐甘とうの栽培状況を見てもらった上で、市場側、産地側それぞれからの状況報告と意見交換を行いました。

普及所からは、園芸部で取り組んでいる高知県GAP第三者確認制度について説明しました。

GAPの取り組みについて、市場担当者からは「産地提案の時の材料にできる」という声が聞かれました。

今後も普及所は、JAと連携して産地の販売強化につながる取り組みを支援していきます。

適切な穂肥施用に向けて！～「土佐天空の郷」水田巡回～



生産者と生育状況を確認中

7月20～22日の3日間、本山町特産品ブランド化推進協議会では、「土佐天空の郷」全生産者32戸の圃場を巡回しました。

普及所と本山町農業公社が水稻の茎数、葉色、幼穂長を調査し、各地区ごとに、その結果をもとに参加者全員で穂肥の時期や量と今後の栽培管理について検討しました。

生産者からは「適切な時期に穂肥を施すようにしたい」といった声がきかれ、病虫害の発生状況と今後の防除対策についての情報が共有されました。

今後も普及所は、品質・収量の向上を目指し、水田センサーで測定した水温・水位・気象データの活用や巡回指導を通じて支援していきます。

立割集落協定の水稻ドローン防除打合せ(令和4年度第1回)

～防除作業の効率化・省力化を目指して～



無線機をヘルメットに装着し、操作性を確認する参加者

「立割集落協定」は、7月27日、立割集会所で12名が参加し、今年1回目のドローン防除打合せを行いました。

会では、薬剤選定や作業日程、役割分担を確認するとともに新規導入した無線機の操作訓練を行いました。

普及所からは、ドローン防除に係る申請や届出手続き、飛行前の機体チェック事例を紹介しました。

参加者は、昨年度の課題や操作上の注意点を確認し合い、今年は安全飛行で防除面積を拡大しよう！と意欲を高めていました。

今後も普及所は、管内のドローン運用を引き続き支援していきます。

ミニトマトの着果制限試験 ～収量の安定を目指して～



着果制限の効果を確認中

大豊町のミニトマト栽培では、着果負担による栽培後期の収量の確保が課題となっています。そこで普及所は、着果制限の効果を検討する実証ほを設置しました。

1花房をそれぞれ10花、20花に7月まで制限する区を設定し、生育・収量・品質調査をしています。部会で途中経過を報告したところ、「結果がよければ実践していきたい」などの意見がありました。

今後も普及所は、調査内容を部会で共有し、技術の向上に繋がるように取り組んでいきます。

地下部環境の見える化 ～ユリ葉焼け実証ほ水分センサー設置～



データの見方を確認し
意見交換

8月10日、県農業関係機関10名、メーカー1名が参加し、本山町の花き農家ほ場で実証ほを設置しました。

データポイントを設置しているユリのハウスに、新たに水分、地温、ECを測定するセンサーを設置し、地上部と地下部の環境を見える化する体制を整えました。県下の他地域3カ所の実証ほとともにデータを収集し、葉焼けが発生しやすい環境・管理の解明につなげる計画です。

生産者からは、「地下部環境のデータも参考にしながら管理をしていきたい」との声が聞かれました。

今後もユリの栽培管理に適した管理について調査し、技術向上につなげていきます。